



茂原地区と田沢地区の秋の例大祭にわらじを編んで奉納して、いる茂原在住の菅野忠良さんに、藁を編み始めたきっかけや、祭りのわらじを編み始めた経緯やこだわりなどについて、お話を伺いました。

「古代米の藁で編んだ草履わらじを奉納。三匹獅子の子どもたち喜んでもらえて嬉しいです」

かわら版

集落支援員だより



▲菅野忠良さん。考案した祭り用の草履わらじを手に

また約十五年前に、近所の人から「護国神社に奉納したい」と思

私が十代の半ば頃は、冬の農閑期になると地元の人が集まることが習慣でした。当時、藁と背当ては農家の必需品だったので毎年、自分で編むのが当たり前だったんです。



▲毎年冬になると、藁で藁やわらじを編むのが習慣になっているそうです

Q 藁を編み始めた経緯は？

Q 草履わらじの考案について

茂原&田沢の秋祭りの魅力&楽しみ方は？

茂原地区では旭神社と熊野神社で、田沢地区では日山神社、八幡神社、熊野神社で秋祭りが盛大に行われます。茂原と田沢の両方に共通する秋祭りの魅力、楽しみ方を紹介します。

◆魅力その①：三匹獅子
小中学生による獅子舞は迫力たっぷりです。太郎、次郎、花子役とそれぞれ振り付けも違うので、見ていて楽しめます。

◆魅力その②：祭囃子の行列
お囃子や太鼓など、祭の行列が地域内を練り歩きます。地元の人々による賑やかな行列は、秋のお祭の代名詞ともいえます。

◆魅力その③：日山山頂へ
日山山頂の神社に獅子舞を奉納するために、登山が行われます。山頂には茂原、田沢だけでなく葛尾村や川俣町からも人が集まり、それぞれの獅子舞が奉納されます。



▲祭囃子の行列も風情たっぷり



▲使い込まれてすり減った道具にも歳月を感じます

するしめ縄用に古代米を栽培してほしい」と依頼され、一緒に栽培を始めました。古代米は長さもあり、藁にすると柔らかくてわらじに適していると感じ、古代米の藁でわらじを編むことに。足首に巻き付けるように紐を長くつけるなどして工夫し、草履わらじが出来上がりました。サイズも子どもたちの足に合わせて編んでいます。祭りで三匹獅子の子どもたちが元気に踊っている姿を見ると、とっても嬉しいですね。そんな楽しみもあり、自分が続けられるように、子どもたちもわらじを編み続けたいと思

◆取材を終えて

▼カラフルな模様
が織り込まれた藁も編んでいます



っています。

忠良さんは八十歳を過ぎてからワイン用のブドウ栽培を始めました。自家栽培ブドウから醸成されたワインを「遥」と名付け、ラベルには自宅から見える移ヶ岳を描いています。いくつかになって好奇心を持って新しいことに挑戦する忠良さんは、人生を楽しむことの達人だと感じました。



▲赤ワイン「遥」

～ごみの出し方講座③～

～もとみやクリーンセンターからのお願い～
通常の生活ごみは、各自治会のごみステーションをご利用ください！

下の写真は、毎週土曜日と月曜日のもとみやクリーンセンター前の道路の様子です。個人搬入車の行列によって渋滞が発生することもあり、近隣関係者や生活道路利用者に大変な影響を及ぼしています。直接持込みするごみは基本的に指定ごみ袋に入らないものとなっております。日常生活ごみは各自治体のごみステーションをご利用ください。



▲待ち時間もかなり長くなっています



こちらのQRコードから「ごみの分け方出し方」を確認できます

さくらデビュー50周年記念
in岩代トーク&ライブ

～昭和の名曲「昭和枯れすすき」で一世を風靡した「さくらと一郎」のさくらさんが、ふるさと岩代に帰ってきます！



さくらさんの他にも地元歌手、秀香さん、新道明里さんも友情出演します

★日時／2023年10月22日（日）
14時～
★会場／岩代総合文化ホール
★問合せ：☎0243-65-2777
岩代地域振興連絡会事務局
（岩代支所地域振興課内）
主催／岩代地域振興連絡会

★詳細は、9月にチラシが完成しますのでお楽しみにお待ちください。



▲口太川沿いに位置し、滝も見られますが、石が苔で覆われて滑りやすいので、ご注意ください

岩代を愛する人がすすめる魅力あるスポットを紹介。二二回目は岡田の三浦幸一さんです。

I Love Iwashiro ②②
～岡田・不動滝&瀧守神社～

今はひっそりとして瀧守神社ですが、私が子供の頃は、毎年旧暦の七月七日に瀧守神社の祭りが開催され、境内の周りに屋台が並んで賑わっていました。当時ご馳走だったところ天や氷水、駄菓子を買って食べた思い出もあります。その後、岡田地区では養蚕が盛んになり、みんな忙しかったこともあって、残念ながら十年以上は祭りを開催していません。社の中には木彫りの不動明王像が祀られています。その由来について江戸時代に近隣の人が記した草稿を私の祖父が書き写したものが残されています。それによる「恵心僧都の作なり」とも、文



写真上／社が二つあり、下の社が瀧守神社、上の社は不動尊（お寺）として知られています
写真下／不動尊は石段の上にあります

◇紹介者◇
岡田在住
三浦幸一さん



「滝の周りに大きな石が点在しますが、江戸時代には霊石として名前が付けられていたようです」

安甲子年（一四四四年）、職人によって彫刻され「その胸中に真体を籠めおく」とも記されています。目の前で見ても迫力のあるお姿なので、謎めいた伝説もあながち嘘ではないような気もしてきます。霊験あらたかな聖域として、地元のみならず守っていきたくて感じています。

岩代の歴史シリーズ

両属の将 石川弾正の生涯 ⑤

いしかわだんじょうけんしょうかい
石川弾正顕彰会事務局長
日下部 善己

五 石川弾正光昌の登場

石橋氏への下剋上の結果、塩松は宮森城と小浜城に拠る大内氏と百目木城の石川氏が並立した。

史料上、石川弾正光昌の登場は天正十一年（一五八三）である。大内義綱の子定綱は会津蘆名氏と結び、娘の舅である二本松畠山義継の援助を得て、兵三千で田村清頭傘下の百目木城に攻め上った。

しかし馬上七〇騎、兵千の決死の反撃を受けて敗走した。一方、定綱は各地に侵入する田村勢を連破して塩松の覇権を手中にし、その実力を南奥州に示した。

やがて塩松進出を図る伊達軍は大内勢の籠もる小手森城を攻略したため、定綱は小浜城を退去した。その後小浜城を拠点に政宗は二本松城を攻略した。

弾正は、大内氏攻略以後には清頭への勧めもあり田村傘下を離れて伊達氏に帰属した。

古来、塩松東部開発を進めた塩松石川氏の現当主弾正には、政宗から大内氏攻略の恩賞として小手森城等が増された。

しかし、長く大内氏と塩松の覇権を争い、定綱敗走後の当地域の盟主は自分である、と自負していたであろう弾正は、塩松三十三郷

と力とされるに留まった。